

Annual Report 2018

2018年度 事業報告書



公益財団法人
川野小児医学奨学財団

ごあいさつ

平成という時代が終わり、令和という新しい時代が幕を開けました。当財団も平成と共にスタートし、今年度で 30 周年という節目の時期を迎えることとなりました。この 30 年間で振り返ってみますと、長男の死という悲しい出来事が、皆さまの温かいご支援・ご協力により、小児医学・医療の発展、そして多くの子どもの健やかな成長を目的とする当財団の活動の充実・発展につながったのではないかと感じています。

おかげさまで昨年度におきましても、各事業において小児医学研究者や医学生、医療施設に対してしっかりと支援をすることができました。毎年、助成や表彰、奨学金給付をさせていただく度に、研究者、医学生などそれぞれが持つ強い志や熱い想いを知り、そういった方々をサポートできることを大変嬉しく思います。本書には、数値だけではお伝えできない研究者の声も掲載しておりますので、ぜひご一読ください。

時代と共に子どもたちを取り巻く環境は変化しています。そのような中で、当財団が子どもたちの健やかな成長のためにできることはまだまだあると感じ、この 30 年という節目に既存事業を拡大し、新規事業を開始することを決定しました。一つの財団として社会に与えられる影響は大きくありませんが、これまでのように毎年、活動を積み重ね、充実を図ることで、ますます小児医学・医療・保健の発展のお役に立ちたいと思います。



理事長

川野 幸夫

株式会社ヤオコー / 代表取締役会長

数字で振り返る 2018 年度の活動

研究助成



38 名
4,530 万円

奨学金給付



新規 4 名・継続 15 名
1,368 万円

小児医学川野賞



2 名
200 万円

医学会助成



7 件
350 万円

小児医療施設支援



5 件
71 万円

目次

2018 年度 事業報告

1 研究助成

交付者一覧

交付者インタビュー

佐藤 泰司先生 / 防衛医科大学校生化学
「子どもにとって安全性の高い麻酔薬を医療の現場に届けたい」

これまでの実績

4

6

7

2 奨学金給付

給付者大学一覧

奨学生証書授与式

これまでの実績

8

9

10

3 小児医学川野賞

受賞者インタビュー

道上 敏美先生 / 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター研究所環境影響部門
「骨の正常な発達を阻む難病。そのメカニズムの解明に取り組む」

酒井 康成先生 / 九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野 (小児科学)
「より良い治療を目指して、子どもの脳疾患にチームで挑む」

これまでの実績

11

13

4 医学会助成

助成先一覧

これまでの実績

14

15

5 小児医療施設支援

助成先一覧

16

2019 年度 経過報告

1 研究助成

交付者一覧

18

2 奨学金給付

給付者一覧

20

3 医学会助成

助成先一覧

21

4 設立 30 周年を迎えるにあたり

22

5 2019 年度中の募集について

募集概要

23

役員・評議員・選考委員一覧

24

ご寄附のお願い

25

2018 年度 | 事業報告

Annual Report 2018

1 研究助成

交付者一覧

2018年度は、一般枠48名・若手枠47名の応募があり、2018年3月10日に開催した選考委員会の結果、一般枠19名・若手枠19名の計38名の研究者の方に総額45,300千円の助成金を交付しました。

〔一般枠19名〕

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額（千円）
高木 正稔	東京医科歯科大学医歯学総合研究科 茨城県小児周産期地域医療学講座・小児科 「小児リンパ系腫瘍の疾患感受性遺伝子探索」	3,000
芦田 浩	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科細菌感染制御学分野 「腸管病原細菌による宿主細胞死制御機構の解明」	2,000
金井 貴志	防衛医科大学校小児科学講座 「川崎病における好中球細胞外トラップ（NETs）形成機構の解明と新規重症度マーカーの確立」	2,400
宮野 剛	順天堂大学医学部小児外科学講座 「先天性胆道閉鎖症に対する理論上100%の診断能を見込む低侵襲検査法の開発：ICG－Green BA test」	2,400
竹谷 健	島根大学医学部小児科 「慢性肺炎患モデルラットに対する高純度間葉系幹細胞治療の開発」	2,400
柴 徳生	横浜市立大学大学院医学部医学研究科小児科学 「網羅的DNAメチル化解析による再発難治小児急性骨髄性白血病の病態解明」	1,000
難波 文彦	埼玉医科大学総合医療センター小児科 「高濃度酸素性肺傷害マウスにおけるビルビン酸脱水素酵素の重要性」	1,500
鹿島田 健一	東京医科歯科大学医学部小児科 「新規トランスクリプトーム解析法を用いた、性分化体細胞分化における転写制御ネットワークの解明」	1,500
仲嶋 一範	慶應義塾大学医学部解剖学教室 「脳神経細胞の種類を生体内で人為的に転換させる試み」	1,500
石塚 佳奈子	名古屋大学医学部附属病院精神科・親と子どもの心療科 「NRXNを起点に自閉スペクトラム症と統合失調症をgenotype-to-phenotypeで再構築する試み」	1,000

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額（千円）
安永 正浩	国立研究開発法人国立がん研究センター 先端医療開発センター・新薬開発分野 「難治性・治療抵抗性的小児炎症・自己免疫疾患に対するIL-7R標的療法の開発」	1,500
佐藤 泰司	防衛医科大学校薬理学 「小児麻酔の神経毒性に関する研究」	1,500
梶原 健	埼玉医科大学病院産科・婦人科 「エクソソームを介した母体-胎児間相互作用の解明」	1,500
水野 洋介	埼玉医科大学ゲノム医学研究センターゲノム科学部門 「非コードRNAを病因とするミトコンドリア病の新規発症機構の解明」	1,500
後藤 昌英	自治医科大学小児科学 「自閉スペクトラム症の候補遺伝子としてのサーカディアン関連遺伝子とmicroRNAとの関連解析」	1,500
上條 岳彦	埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所 「PRC1複合体ユビキチンリガーゼRINGを標的とした抗がん剤の開発」	1,500
定方 哲史	国立大学法人群馬大学テニュアトラック普及推進室定方研究室 「脳内における分泌異常と自閉症発症との関連についての解析」	1,500
宮武 聡子	横浜市立大学附属病院遺伝子診療部 「脳小血管病の新規疾患責任遺伝子同定」	1,500
濱田 博喜	岡山理科大学理学部臨床生命科学科食品予防医学研究室 「BBB透過型エビゲノム作用薬による発達障害の新しい治療法の開発」	1,500
小 計		32,200

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

〔若手枠19名〕

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額（千円）
高澤 啓	東京医科歯科大学医学部附属病院小児科 「日本人小児先天性重症インスリン抵抗性症候群の臨床像と病態解明」	1,000
藤岡 一路	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野 神戸大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター 「胎便性腹膜炎モデルマウスに対する薬物的ヘムオキシゲナーゼ-1誘導/間葉系幹細胞投与併用療法の開発」	1,000
青木 孝浩	千葉大学医学部附属病院小児科 「NKT細胞のNK受容体を介した腫瘍認識機構の解明と小児白血病治療への応用」	1,000
吉田 裕輔	防衛医科大学校小児科学講座 「TRAF3遺伝子異常による免疫不全症の同定と病態解明」	800
大西 峻	国立大学法人鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児外科学 「新生児壊死性腸炎に対するグレリンを用いた実験的予防治療法の開発」	800
星野 愛	東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻発達医学教室 「胃腸炎関連中枢神経合併症における病原側と宿主側要因の検討」	800
越智 崇徳	順天堂大学医学部小児外科学講座 「アミノ酸による小腸腸管マクロファージからのIL-10産生制御メカニズムの解明」	800
上田 理誉	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部 「小児注意欠如多動症における情動調節不全の発症機構の解明」	800
今井 一男	埼玉医科大学医学部感染症科・感染制御科 「妊娠中梅毒の抗菌薬選択に応用可能なマクロライド耐性梅毒トレポネーマの簡易検出法の開発」	800
辻本 信一	横浜市立大学医学部附属病院発生育小児医療学講座 「造血細胞移植時の血管内皮細胞障害の血清マーカーの同定とリコンビナントロンボモジュリンの効果判定マーカーの検索」	800

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額（千円）
辻村 啓太	名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野 「小児神経発達症レット症候群及びMECP2重複症候群の共通分子病態の解明」	500
國石 洋	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部 「幼少期ストレスが眼窩前頭皮質-扁桃体回路の発達に与える影響と神経可塑性を利用した治療法の検討」	500
倉田 盛人	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 先端医療開発学講座包括病理学 「発現量依存的なRASシグナルとその遺伝子発現プロファイルを用いた治療応用について」	500
黒川 駿哉	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 「自閉スペクトラム症患者における腸内細菌叢および菌由来代謝産物が精神症状と消化器症状に与える影響の検討」	500
石井 聖二	慶應義塾大学医学部生理学教室（岡野研究室） 「中枢神経系の発生におけるストレス臨界期を制御する一次繊維の意義と分子機構の解析」	500
不破 一将	日本大学医学部附属板橋病院小児科学系小児科学分野 「LAMP法による新生児の検体における迅速かつ簡便なウレアブラズマの検出法の確立」	500
池田 尚広	自治医科大学小児科学小児科 「多角的な注意欠如・多動症の評価と治療効果因子の検討」	500
池本 智	埼玉県立小児医療センター神経科保健発達部 「小児神経疾患、てんかんにおける頭脳波記録の高周波振動についての検討」	500
知識 美奈	福島県立医科大学小児科学講座 「グルコシル化コイドの血管透過性調整に関わるマイクロRNAの同定と臨床応用への検討」	500
小 計		13,100

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

2018年度 助成研究成果発表会の様子



交付者インタビュー

子どもにとって安全性の高い麻酔薬を医療の現場に届けたい



佐藤 泰司先生
Yasushi Satoh
防衛医科大学校生化学
交付時：防衛医科大学校薬理学

1. 研究テーマを教えてください。

「小児麻酔の神経毒性に関する研究」です。

2. どのような研究か教えてください。

私たちは、小児期の麻酔が及ぼす影響とそのメカニズムについて研究をしています。脳の発達が未成熟な幼少時に麻酔を受けた場合、何年も経ってから、脳への影響が見えてくることがあります。例えば、乳児期に麻酔をしたことが将来的に自閉症の発症と関係してくる可能性があります。この問題が初めて示唆されたのは2003年で、それ以来、数多くの研究が行われてきました。小児期の麻酔が将来的に何らかの悪影響を及ぼしたという結果もあれば、毒性はなかったという結果もあり、専門家も混乱しています。しかし、そのような状況の中で、5歳以上の麻酔で悪影響があることを示す報告はほとんど無いということが分かってきました。また、5歳以下であっても2時間以下の麻酔ならば悪影響はほとんど無いということも分かってきました。現在も世界中で研究が進んでおり、ますます理解が深まるものと思われま

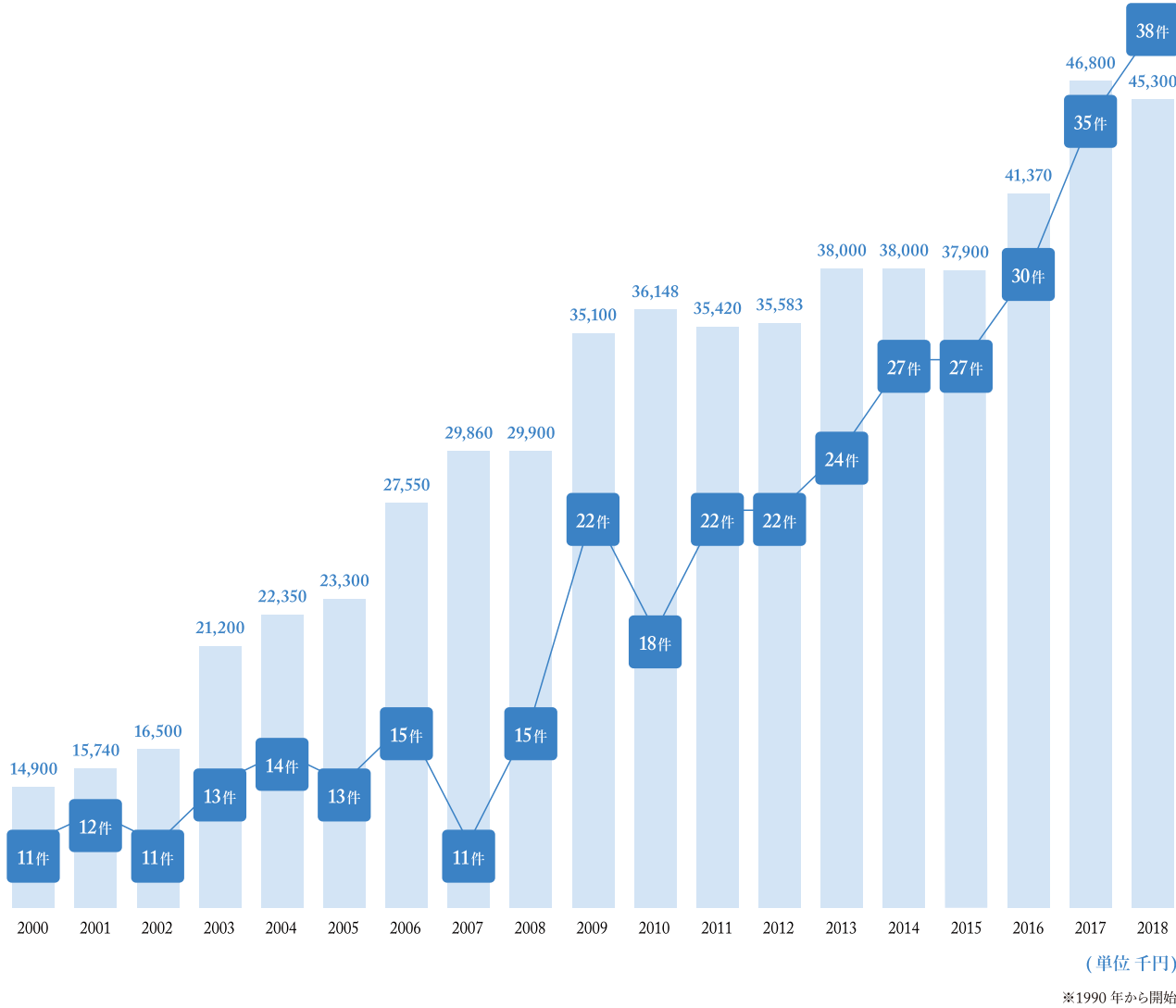
3. この研究に取り組もうと思ったきっかけを教えてください。

私は以前、麻酔科に所属していたのですが、この問題を知った時は大きな衝撃を受けました。麻酔は脳に対して安全だと思っていたからです。子どもが手術を受ける際に麻酔は必須ですが、もしその麻酔が自閉症などの発症に関係しているのであれば、患者さんを治すための医療が、結果的に大きな損失を生んでしまう可能性があるわけです。欧米では既に社会問題となっていますが、日本ではあまり大きく取り上げられていません。私たちはこれまでの研究により、この問題は十分解決可能だという感触を得ています。一刻も早く研究の成果を臨床現場に活かしていきたいです。

4. 先生の研究をどのように活かしていきたいか具体的に教えてください。

我々の研究結果をもとに、製薬会社と共同で小児期に受けても悪影響の少ない麻酔薬の開発を進めています。その他に、既存の麻酔薬でも少量の水素ガスを同時に吸入すると悪影響がほぼ無くなることを発見しました。この方法に関しては既に製薬会社と共同で特許を取得しています。将来、これらの研究成果が実際に医療の現場で使われ、少しでも安全な麻酔が実現することを夢んでいます。

これまでの実績



2 奨 学 金 給 付

給付者大学一覧

2018年度は、新規4名・継続15名の計19名の医学生に対して、総額13,680千円の奨学金を給付しました。

〔新規給付4名〕

大学名	人数	年間給付額(千円)
名古屋大学	1	720
東北大学	1	720
福島県立医科大学	1	720
東北医科薬科大学	1	720
小計		2,880

〔継続給付15名〕

大学名	人数	年間給付額(千円)
秋田大学	3	2,160
岡山大学	1	720
群馬大学	1	720
慶應義塾大学	3	2,160
島根大学	3	2,160
順天堂大学	1	720
千葉大学	1	720
獨協医科大学	1	720
福島県立医科大学	1	720
小計		10,800

※五十音順

奨学生証書授与式

2018年7月28日(土)に都内ホテルにて第1回目となる奨学生証書授与式を開催いたしました。

開催にあたって

奨学金事業は、小児医学界における将来の担い手の育成や輩出を支援するため、当財団設立翌年の1990年に開始されました。2018年度までに、40名に貸与・38名に給付を行っていましたが、これまで奨学生が一同に会する機会を設けてきませんでしたが、本事業が経済的な支援にとどまらず、奨学生の成長の助けとなるよう、2018年度より奨学生証書授与式を行うこととなりました。他大学で学ぶ奨学生同士が、個々の現状や悩みを共有することで高め合える仲間を見つけたり、理事や選考委員から当財団の想いや医師という仕事の大切さについて聞くことで、医学への志をさらに高めてほしいと思っています。

当日の様子について

全国から集まった15名の奨学生に加え、理事や選考委員など全24名が出席しました。授与式では理事長から楯が贈呈され、皆引き締まった表情を見せていました。その後の懇親会は部活や勉強など、さまざまな話題で盛り上がりました。奨学生からは「普段交流のない他大学の医学生と話せて刺激になった」、「先輩医師の皆さんから応援メッセージをもらえて励みになった」などの声が寄せられています。

贈呈される楯について

これからの小児医学界を担う輝ける原石である奨学生が、自身を磨き志高く進んでいって欲しい、そんな想いが込められています。



3 小児医学川野賞

2018年度は、基礎医学分野8名・臨床・社会学分野8名の応募があり、2018年12月8日に開催した選考委員会の結果、基礎医学分野では大阪府立病院機構大阪母子医療センター 道上先生、臨床・社会医学分野では九州大学大学院医学研究院 酒井先生の2名に贈呈しました。

基礎医学分野 受賞者インタビュー

骨の正常な発達を阻む難病。そのメカニズムの解明に取り組む



道上 敏美先生
Toshimi Michigami

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター研究所環境影響部門

1. 研究テーマを教えてください。

「骨ミネラル代謝の分子機構およびその破綻による疾患の病態解明」です。

2. 道上先生の研究はどのような病気に苦しむ子どもたちが対象となるのでしょうか。

私たちは、主に骨系統疾患とよばれる骨の難病を研究しています。特に精力的に研究してきた病気の一つが、低リン血症性くる病という病気です。骨が正常に発達するためにはリン

が必要ですが、この病気では遺伝子の異常のために尿中にリンが過剰に排出され、体内のリンが不足してしまいます。骨は強度を失い、O脚やX脚などの骨変形や骨折、骨痛などが起こります。また、低ホスファターゼという病気についても研究してきました。この病気では骨の発達に必要な特定の酵素が足りません。重症の患者さんでは骨が成長せず、生まれてまもなく呼吸不全で死亡します。比較的軽症でも、骨の変形や骨折、成長障害が起こったり、乳歯が次々抜けて小児義歯が必要になったりします。

3. そういった病気について、どのような研究をされているのか教えてください。

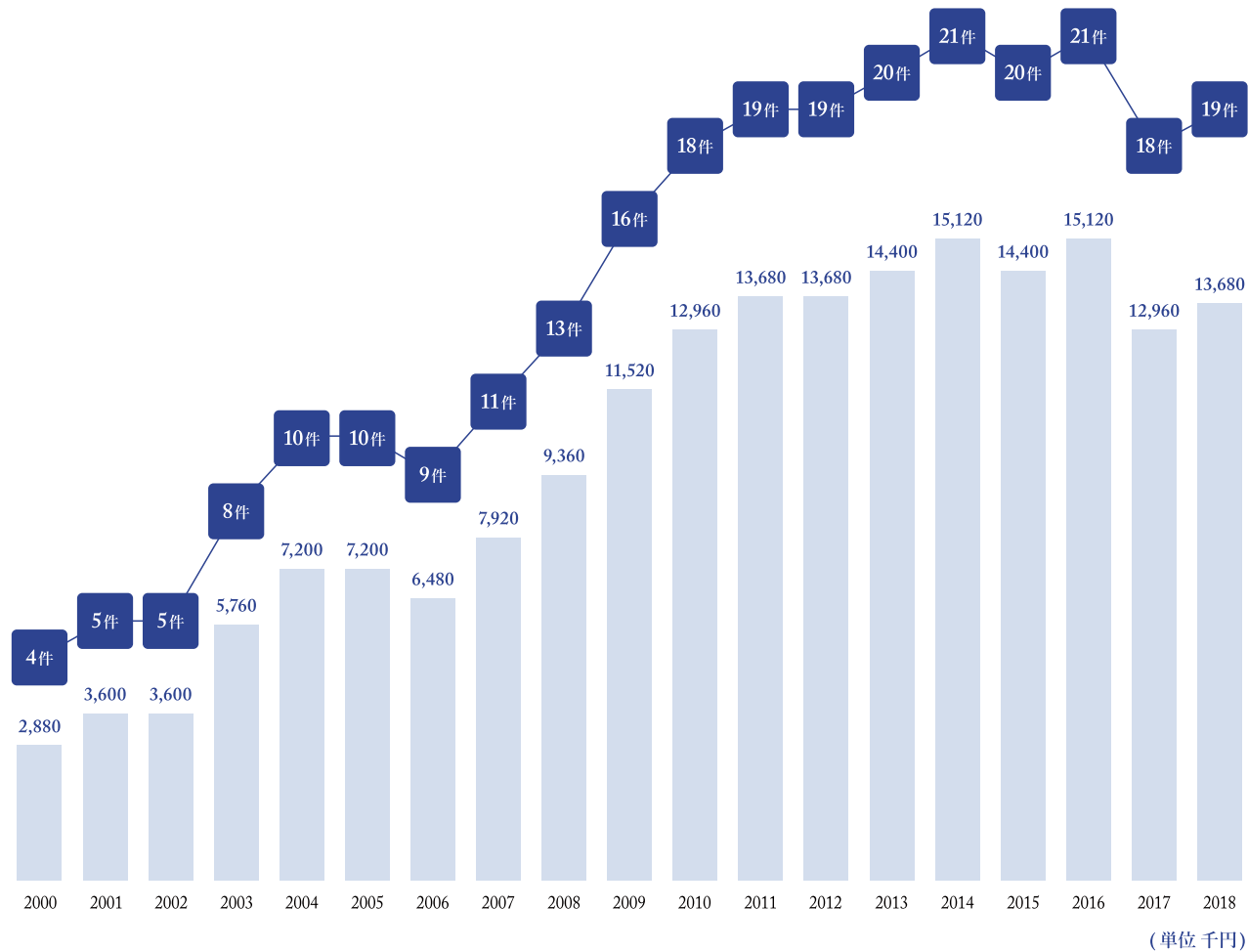
それらの病気が起こる仕組みを細胞や分子のレベルで明らかにして、より正確な診断や効果的な治療法の開発につなげることをめざしてきました。例えば、低リン血症性くる病はPHEXという遺伝子の変異によって起こりますが、どうしてリンが尿中に過剰排出されてしまう

のかまでは分かっていませんでした。そこで私たちは、モデルマウスから原因と考えられる細胞を採取して解析することで、そのメカニズムを明らかにしました。また、低ホスファターゼ症については、日本全国の患者さんから検体を送っていただき、原因となる遺伝子の解析を行い、日本人の患者さんにおける遺伝子変異と症状の関係や病型(種類)の特徴について明らかにしました。

4. 小児医学川野賞を受賞された感想をお聞かせください。

私はこれまで川野小児医学奨学財団から2度にわたって研究助成金を頂きました。ここまで研究を進めてこられたのも、財団および関係の皆様のご支援のおかげと感謝しています。また、助成研究成果発表会に出席した際、他の先生方の研究内容のレベルが高くなっていることを実感し、その中でこのような賞を頂けたことを非常に光栄に感じています。

これまでの実績



※1990年から貸与型を開始、2010年から給付型を開始し、2015年からは給付型のみ



臨床・社会医学分野 受賞者インタビュー

より良い治療を目指して、子どもの脳疾患にチームで挑む



酒井 康成先生

Yasunari Sakai

九州大学大学院医学研究院
成長発達医学分野（小児科学）

1. 研究テーマを教えてください。

「小児脳疾患の収束的分子シグナルに関する研究」です。

2. どのような病気について研究されているのか教えてください。

私は、子どもの脳が発達する過程で起こる病気について研究をしています。例えば、Phelan-McDermid 症候群（22q13 欠失症候群）という病気です。この病気の患者さん

には、言葉が出てこない、知的な障害が起こるなどの症状がみられます。それ以外の病気に関しても、自閉スペクトラム症、けいれん・てんかん、もやもや病、脳炎・脳症など対象を限定せずに、若手の先生方と共に研究に取り組んでいます。子どもの疾患は様々な原因が組み合わさっている場合も多いですし、成長に伴って問題点に変化する病気も少なくありません。症状から考えられる疾患に見逃しがいないか、少しでも気になる点は他の先生方と話し合いをして、より適切な対応ができるように心がけています。

3. そういった病気について、どのような研究をされているのか教えてください。

病気の原因を解明し、より効果的な治療法を見つけることを目指しています。多くのデータを一度に扱って物事を包括的に解明しようとする新しいオミックス研究と、一つひとつを地道に分析する従来の生化学を組み合わせる方法で研究を行っています。

4. 小児医学川野賞を受賞された感想を教えてください。

これまでお世話になった恩師、教室の先輩・後輩と共同研究者の先生方に、どれだけ支えていただいたかを今回、改めて実感しました。特に、大学院を終え、小児科で何をすべきか考えていた時、恩師に「どんなことでも良いから、今までやってきたことを診療につなげる努力をしなさい。」と言われたことは、大きな支えになっています。

また、私の研究している Phelan-McDermid 症候群（22q13 欠失症候群）のご家族と初めて出会った 10 年前のことも思い出されます。研究は進んでいますが、その時掲げた「分子解析から治療標的を見いだす」という目標はまだ達成できていません。臨床医として一歩ずつ目標に近づけるよう、若手の先生方と一緒に努力し、これまで出会った患者さんとそのご家族に喜んでいただけるような研究成果を出していきたいと思います。

Interview

これまでの実績

回／年度	氏名／所属機関
第 1 回／ 2000 年度	奥山 眞紀子／埼玉県立小児医療センター

回／年度	氏名／所属機関	
	小児基礎医学	小児臨床・社会医学
第 2 回／ 2001 年度	林 泰秀／東京大学医学部小児科 長谷川 奉延／慶應義塾大学医学部小児科	平岡 政弘／福井医科大学小児科
第 3 回／ 2002 年度	廣瀬 伸一／福岡大学医学部小児科	大井 静雄／東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座
第 4 回／ 2003 年度	緒方 勤／国立成育医療センター研究所	吉川 徳茂／和歌山県立医科大学小児科
第 5 回／ 2004 年度	斎藤 博久／国立成育医療センター研究所	加治 正行／静岡県立こども病院
第 6 回／ 2005 年度	伏木 信次／京都府立医科大学大学院医学研究科	
第 7 回／ 2006 年度	大橋 十也／東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所	夏目 長門／愛知学院大学歯学部口唇口蓋裂センター
第 8 回／ 2007 年度	峯岸 克行／東京医科歯科大学大学院免疫アレルギー学 塚原 宏一／福井大学医学部付属病院小児科	山高 篤行／順天堂大学医学部小児外科
第 9 回／ 2008 年度	金子 英雄／岐阜大学大学院医学系研究科医学部地域医療医学センター	小崎 健次郎／慶応義塾大学医学部小児科学教室
第 10 回／ 2009 年度	深尾 敏幸／岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学	高橋 幸利／国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター
第 11 回／ 2010 年度	先崎 秀明／埼玉医科大学国際医療センター	海老澤 元宏／国立病院機構相模原病院臨床研究センター
第 12 回／ 2011 年度	下澤 伸行／岐阜大学生命科学研究支援センター	川崎 幸彦／福島県立医科大学小児科
第 13 回／ 2012 年度	福田 誠司／島根大学医学部小児科学	加藤 光広／山形大学医学部付属病院小児科
第 14 回／ 2013 年度	滝田 順子／東京大学大学院医学研究科生殖・発達・加齢医学小児科	浜野 晋一郎／埼玉県立小児医療センター
第 15 回／ 2014 年度	滝沢 琢己／群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野	高橋 謙造／帝京大学大学院公衆衛生学研究科
第 16 回／ 2015 年度	田島 敏広／自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科	家入 里志／鹿児島大学学術研究院歯学部医学系小児外科学分野
第 17 回／ 2016 年度	北中 幸子／東京大学大学院医学系研究科小児医学講座	野津 寛大／神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野
第 18 回／ 2017 年度	竹田 誠／国立感染症研究所ウイルス第三部 深見 真紀／研究開発法人国立成育医療研究センター分子内分泌研究部	森岡 一朗／神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野 こども急性疾患学部門
第 19 回／ 2018 年度	道上 敏美／地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター研究所 環境影響部門	酒井 康成／九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野（小児科学）

※敬称略・所属機関は受賞時の機関
※第 2 回／ 2001 年度以降は小児基礎医学及び小児臨床・社会医学それぞれの分野より選出

4 医学会助成

助成先一覧

2018年度は、7件の医学会に対して総額 3,500 千円の助成金を交付しました。

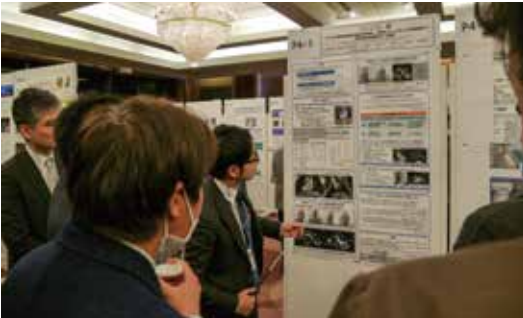
学会名	開催日	開催場所	交付額（千円）
第 45 回日本マスキリーニング学会学術集会	2018 年 8 月 17 日～ 18 日	ラフレさいたま	500
第 7 回日本 DOHaD 学会学術集会	2018 年 8 月 17 日～ 18 日	飯田橋レインボービル	500
第 36 回日本小児心身医学会学術集会	2018 年 9 月 7 日～ 9 日	大宮ソニックシティ	500
第 25 回国際小児直腸肛門奇形学術会議	2018 年 10 月 5 日～ 7 日	秋葉原 コンベンションホール	500
ドクターペナ小児直腸肛門外科疾患ワークショップ	2018 年 10 月 8 日～ 9 日	東京大学 医学部附属病院	500
日本小児麻酔学会第 24 回大会	2018 年 10 月 20 日～ 21 日	神戸ポートピアホテル	500
第 30 回 JPIC 学会学術集会	2019 年 1 月 24 日～ 26 日	埼玉県県民健康 センター	500
小 計			3,500

※開催日順

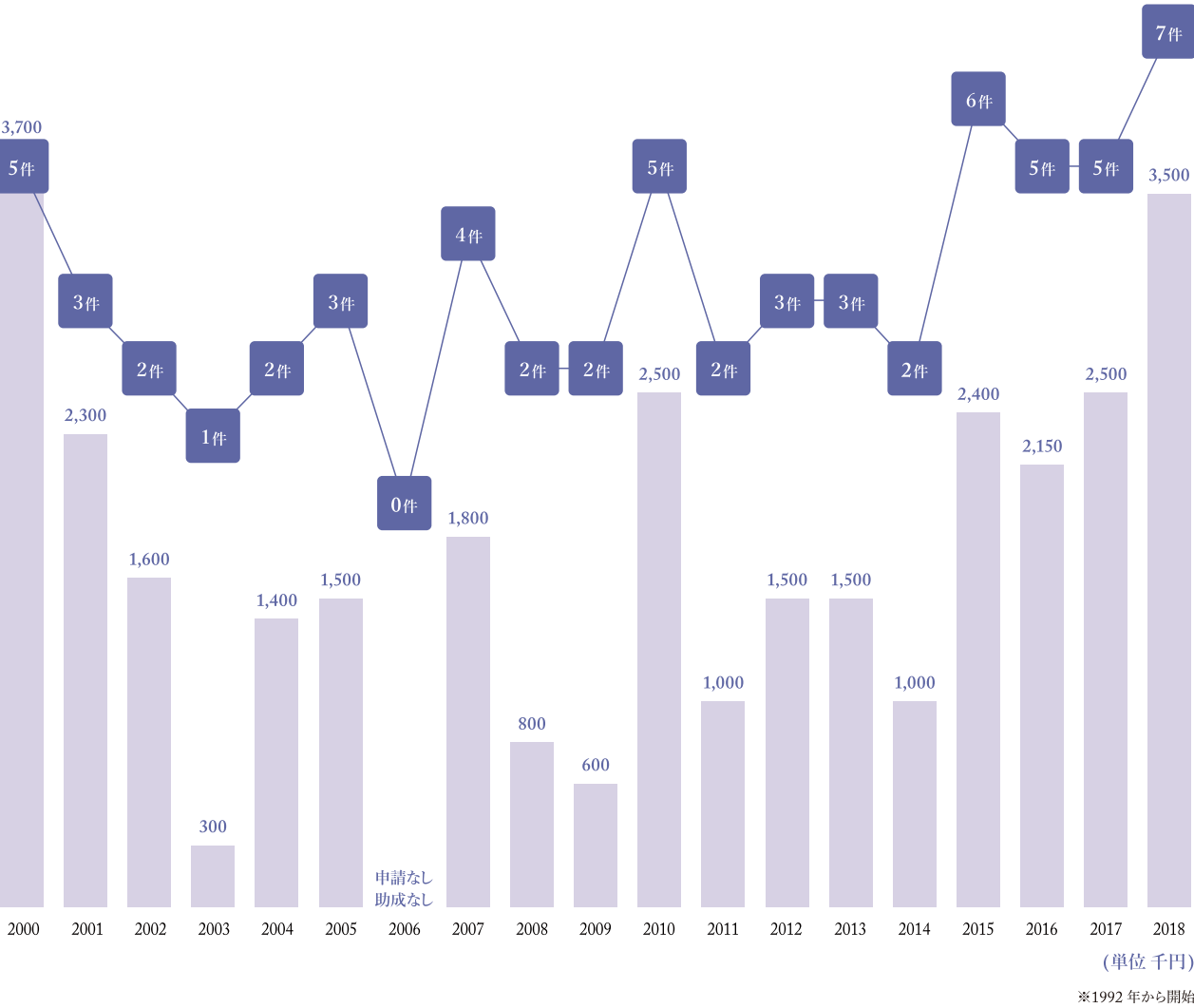
第 30 回 JPIC 学会学術集会の様子



ドクターペナ小児直腸肛門外科疾患ワークショップの様子



これまでの実績



5 小児医療施設支援

助成先一覧

2018 年度は、5 件の小児医療施設に対して総額 709 千円の助成金を交付しました。

施設名	使 途	交付額(千円)
医療型障害児入所施設「カリヨンの杜」	入所中の子どもたちの生活環境を整えたり、成長や発達を支援したりできるよう、おもちゃや備品を購入	147
さいたま市立病院	入院している子どもたちがプレイルームで安全に心地よく過ごせるように、プレイマットやベンチを購入	136
埼玉県立小児医療センター	病院に診察や治療に来る子どもたちのために設置している図書コーナーの充実を図るため、絵本を置く棚を購入	137
自治医科大学附属さいたま医療センター	新生児集中治療室に入室できない家族が、ビデオカメラとタブレットを通して入院している赤ちゃんの様子を見ることができるよう、遠隔ビデオカメラモニタリングシステム一式を購入	148
南平野クリニック	心身に重症な障害を持つ子どもたちの送迎時に使用するチャイルドシートや食事・DVD 鑑賞をより快適に行うためのクッションチェア、クリニック内の生活を楽しくするための家庭用プラネタリウム機器を購入	141
小 計		709

※五十音順

南平野クリニックの様子



1

研究助成

2019年度研究助成

交付者一覧

2019年度は、一般枠 51 名・若手枠 34 名の応募があり、2019 年 3 月 9 日に開催した選考委員会の結果、一般枠 19 名・若手枠 18 名の計 37 名の研究者の方に総額 45,850 千円の助成金を交付することが決定しました。

[一般枠 19 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額（千円）
川崎 朋範	埼玉医科大学国際医療センター病理診断科 「希少がん 骨軟部肉腫における増殖・転移メカニズムの解明に基づく血小板をターゲットにした新規治療法の開発」	3,000
菅沼 栄介	埼玉県立小児医療センター感染免疫アレルギー科 「川崎病の冠動脈瘤における狭窄メカニズムの解明と新規治療法の開発」	2,500
山高 篤行	順天堂大学医学部小児外科学講座 「オルガノイド移植とハイブリッド腸作成による難治小児疾患外科治療開発」	2,400
古川 雄祐	自治医科大学分子病態治療研究センター・幹細胞制御研究部 「中枢神経白血病に対するエビジェネティク療法の開発」	2,400
嶋田 明	岡山大学病院小児血液・腫瘍科 「再発小児急性白血病の新たな分子標的薬の探索」	2,000
郷 勇人	公立大学法人福島県立医科大学総合周産期母子医療センター 「新生児慢性肺疾患における miR-21 の役割解明と臨床応用に関する研究」	1,500
山中 岳	東京医科大学小児科学分野 「てんかん性脳症に対する末梢と中枢からの免疫学的アプローチー脳内炎症伝播の司令塔ペリサイトから挑むー」	1,500
白戸 憲也	国立感染症研究所ウイルス第3部 「RS ウイルス迅速抗原検出キットに代わる迅速遺伝子検出キットの開発」	1,500
井上 健	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 神経研究所疾病研究第二部 「先天性大脳白質形成不全症の遺伝子治療の実用化を目指した新規 AAV デリバiver 技術の開発」	1,500
福岡 講平	埼玉県立小児医療センター血液腫瘍科 「小児脳腫瘍に対する網羅的メチル化解析」	1,150

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額（千円）
山崎 小百合	名古屋市立大学大学院医学研究科免疫学分野 「難治性アレルギーの治療・予防を目指した制御性 T 細胞による新規免疫調節機構の解明」	1,500
吉田 都美	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻薬剤疫学分野 「母体肥満および乳幼児期の肥満が青年期の肥満に与える影響の解明ーライフコースデータによる疫学的検討」	1,500
松尾 洋孝	防衛医科大学校分子生体制御学講座 「消化器疾患のマーカーとなる尿酸値の検証：小腸上皮障害マーカーの探索と評価」	1,500
高澤 慎也	群馬県立小児医療センター小児外科 「小児慢性機能性便秘症患者に対する食事療法の効果と腸内細菌叢の変化に関する研究」	1,500
関 満	自治医科大学小児科 「川崎病病態形成における血小板活性化因子の関与と治療への応用」	1,500
植松 崇之	北里大学メディカルセンター研究部門バイオメディカルラボラトリー 「ヒトiPS 細胞由来脳オルガノイドを用いた化合物スクリーニングによるウイルス性脳炎治療薬の探索」	1,500
菊池 透	埼玉医科大学大学院小児科 「小児慢性機能性1 型糖尿病の治療・予後改善のための多施設共同研究（第 5 コホート）」	1,500
渡辺 栄一郎	東京大学大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学専攻 小児医学講座小児外科学分野 「便プロテオーム解析を用いた壊死性腸炎と未熟児腸内環境の病態解明に関する研究」	1,500
向井 淳	筑波大学プレジジョン・メディスン開発研究センター 「神経発達障害の病態解明と治療薬の探索」	1,500
小 計		32,950

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

[若手枠 18 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額（千円）
小幡 裕希	国立研究開発法人国立がん研究センター研究所がん分化制御解析分野 「急性骨髄性白血病・マスト細胞腫における Kit・Flt3 チロシンキナーゼの異常局在の分子メカニズムーオルガネラから発信されるがんシグナル、その理解に基づいた新規治療法の開発ー」	1,000
大和 玄季	群馬県立小児医療センター血液腫瘍科 「クリニカルシーケンスに向けた小児急性骨髄性白血病の遺伝子パネル解析」	1,000
芦名 満理子	神戸大学医学部附属病院小児科 「ヒト胎盤の網羅的 DNA メチル化解析による胎児発育不全の責任遺伝子の同定」	1,000
石渡 遼	防衛医科大学校生理学講座 「臍帯由来 G-CSF の機能解析」	800
渡邊 健太郎	東京大学医学部小児科 「難治性神経芽腫に対する多相性オミックス解析を利用した新規治療法の創出」	800
田中 智子	公益財団法人東京都医学総合研究所脳発達・神経再生研究分野 神経細胞分化プロジェクト 「DNA 修復異常により引き起こされる発達障害の発症メカニズムの解明」	800
濱 弘太郎	帝京大学薬学部 「脂質メタボローム解析による副腎白質ジストロフィーの病態発症機序と新規バイオマーカーの開発」	800
榊屋 隆太	鹿児島大学病院小児診療センター小児外科 「母親由来キメラ細胞による胆道閉鎖症の免疫学的病因解明と発症予防の可能性探索」	800
藤雄木 亨真	東京大学大学院医学系研究科生殖発達加齢専攻小児外科学教室 「全国的データベースを利用した小児希少疾患に関する研究・National Clinical Database-Pediatrics による術後成績からみる小児の嚢胞性肺疾患に対する手術至適時期、並びに手術リスクの検討」	800
阿部 百合子	日本大学医学部小児科学系小児科学分野 「小児メタボリックシンドロームの正確な内臓脂肪評価と高リスク脂質異常の検出」	800

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額（千円）
千葉 文子	千葉大学附属法医学教育研究センター法医学 「子どもの死因究明と、得られる情報の社会還元に関する研究」	800
青木 悠太	昭和大学発達障害医療研究所 「発達障害当事者において生物学的特性が均一な集団を動画から予測する」	500
立花 奈緒	東京都立小児総合医療センター消化器科 「炎症性腸疾患の新たなバイオマーカー（尿中ロイシリッチα2 グリコプロテイン）の有用性に関する研究」	500
林 健太郎	埼玉県立小児医療センター外科 「経肛門超音波を用いた肛門筋群の 3D 解析：直腸肛門奇形およびヒルシュスプルング病の術前・術後評価および合併症の解明」	500
木内 有希	東京女子医科大学生理学（神経生理学分野） 「発達期神経回路構築過程の分子基盤の解明 - 発達障害の発症メカニズムに解明を目指した基礎研究 -」	500
酒井 純	埼玉医科大学医学部感染症科・感染制御科 「重症心身障害児の尿中の細菌叢解析と薬剤耐性を引き起こす extended-spectrum β-lactamase 産生菌の定着状況の解明」	500
萩原 真一郎	大阪母子医療センター消化器・内分泌科 「小児潰瘍性大腸炎における尿中 PGE-MUM の有用性の検討」	500
榊原 菜々	神戸大学医学部附属病院小児科 「Dent 病および Lowe 症候群の病態解明および新規治療法の開発」	500
小 計		12,900

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

2019 年度 研究助成選考委員会の様子



2 奨学金給付

2019 年度 奨学金

給付者一覧

2019 年度は、新規 5 名・継続 17 名の計 22 名の医学生に対して、総額 15,840 千円の奨学金を給付することが決定しました。

〔新規給付 5 名〕

大学名	人数	年間給付額(千円)
慶應義塾大学	1	720
島根大学	1	720
東京医科歯科大学	1	720
東北大学	1	720
福島県立医科大学	1	720
小計	5	3,600

〔継続給付 17 名〕

大学名	人数	年間給付額(千円)
秋田大学	3	2,160
岡山大学	1	720
群馬大学	1	720
慶應義塾大学	2	1,440
島根大学	3	2,160
千葉大学	1	720
東北大学	1	720
東北医科薬科大学	1	720
獨協医科大学	1	720
名古屋大学	1	720
福島県立医科大学	2	1,440
小計	17	12,240

※五十音順

3 医学会助成

2019 年度 医学会助成

助成先一覧

2019 年度は、6 件の医学会に対して総額 2,600 千円の助成金を交付することが決定しました。

学会名	開催日	開催場所	交付額(千円)
第 56 回九州外科学会・第 56 回九州小児外科学会 第 55 回九州内分泌外科学会	2019 年 5 月 17 日～ 18 日	鹿児島県市町村 自治会館	300
第 66 回日本小児保健協会学術集会	2019 年 6 月 20 日～ 22 日	タワーホール船堀	500
第 33 回日本小児救急医学会学術集会	2019 年 6 月 21 日～ 22 日	大宮ソニックシティ	500
第 19 回新生児栄養フォーラム	2019 年 6 月 22 日～ 23 日	三井住友銀行東館 ライジング・スクエア内 S M B C ホール	500
第 25 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会	2019 年 7 月 15 日	中野セントラルパーク カンファレンス	500
第 26 回日本小児高血圧研究会	2019 年 9 月 14 日～ 15 日	東京慈恵会医科大学 講堂	300
小計			2,600

※開催日順

設立 30 周年を迎えるにあたり

当財団は今年度で設立 30 周年を迎えることとなりました。ここまで事業を続けることができましたのも、ひとえにご支援・ご協力いただきました皆さまのおかげと心より感謝申し上げます。当財団の役割をこれまで以上に果たせるよう、この節目を機に、以下のとおり変更等を行うこととなりました。

行政庁の変更について

より多くの子どもたちの健やかな成長をますます実現できるよう、2019 年 4 月 1 日に内閣府より認定を受け、行政庁を埼玉県から内閣府に変更しました。

事業の拡大・開始について

2019 年度より一部事業の募集分野を拡大すると共に、新規事業を開始することが決まりました。詳細は以下をご確認ください。

1. 「小児医学川野賞」募集分野の拡大

「基礎医学分野」「臨床・社会医学分野」から「基礎医学分野」「臨床医学分野」「社会医学分野」に変更します。

2018 年度まで

基礎医学分野

臨床・社会医学分野

2019 年度から

基礎医学分野

臨床医学分野

社会医学分野

2. 新規事業「ドクターによる養護教諭のための出前セミナー」の開始

子どもたちの命や健康を守るためには小児保健の分野における活動も重要となります。そこで、教育現場にて日々、子どもたちに向き合い、成長の支援をしている養護教諭の皆さまに対して事業を行うこととなりました。養護教諭の皆さまが児童生徒等の抱えている健康上の問題について学び考え、それらの対応について知識を深めるために行っている研修会等に対して、当財団が仲介役となり、小児科医を中心とした専門家を講師として派遣します。

2019 年度中の募集について

募集概要

2019 年度は、以下の事業において応募を受け付けます。詳細は当財団 HP をご確認ください。

2019 年度小児医学川野賞	
対象分野	小児医学、ことに基礎医学・臨床医学・社会医学に関する研究
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 2020 年 3 月 31 日時点で 55 歳以下であること (2) 所属する学会もしくは組織の責任者から推薦を受けていること
顕彰	賞状、メダルおよび賞金 100 万円
募集期間	2019 年 8 ～ 10 月末頃予定

2019 年度小児医療施設支援	
応募資格	原則として埼玉県にある医療施設
助成内容	15 万円以内／件
募集期間	2019 年 8 ～ 10 月末頃予定

NEW 2019 年度ドクターによる養護教諭のための出前セミナー	
2019 年度より始める新しい事業です。 事業の詳細および申込方法は当財団 HP をご確認ください！	

2020 年度研究助成	
対象分野	小児疾患の原因究明・診断・治療・予防等に関する基礎医学的研究、臨床および社会医学的研究 ただし、日本国内の研究機関で行う研究に限る
応募資格	申請者が次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内の総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学研究に従事していること (2) 所属する組織の責任者から推薦を受けていること (3) 若手枠の場合は、2020 年 3 月 31 日時点で 40 歳以下であること
助成内容	〈一般枠〉100 ～ 300 万円以内／件 〈若手枠〉100 万円以内／件
募集期間	2019 年 9 ～ 11 月末頃予定

2020 年度医学会助成	
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内で開催する小児医学に関連する医学会であること (2) 開催日が 2020 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日であること
助成内容	50 万円以内／件
募集期間	2019 年 8 ～ 10 月末頃予定

役 員 ・ 評 議 員 ・ 選 考 委 員 一 覧

[理事]

理事長
川野 幸夫
株式会社ヤオコー / 代表取締役会長

常務理事
柳澤 正義
国立成育医療研究センター / 名誉総長

川野 光世
株式会社川野商事 / 代表取締役

吉野 芳夫
伊藤忠商事株式会社 / 理事

新井 一
順天堂大学 / 学長

上池 昌伸
株式会社ヤオコー / 常務取締役

[監事]

杉田 圭三
株式会社 CWM 総合経営研究所 / 取締役会長

原 敏成
武州瓦斯株式会社 / 代表取締役社長

※敬称略・順不同

[評議員]

川野 清巳
株式会社ヤオコー / 相談役

川野 澄人
株式会社ヤオコー / 代表取締役社長

利根 忠博
一般社団法人埼玉県法人会連合会 / 会長
埼玉りそな銀行 / 元会長・社長

村井 満
公益社団法人日本プロサッカーリーグ / チェアマン

高篠 包
高篠・柿沼法律事務所 / 弁護士

豊田 友康
株式会社メディバルホールディングス / 監査役

※敬称略・順不同

[選考委員]

雨宮 伸
埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷 / センター長

奥山 真紀子
社会福祉法人子どもの虐待防止センター / 理事

● 梶島 香代
文京学院大学人間学部児童発達学科 / 教授

河野 陽一
城東桐和会 タムス浦安病院 / 院長

坂本 穆彦
大森赤十字病院 / 顧問

城 宏輔
医療法人すずき小児科 / 院長

貫井 英明
山梨大学 / 名誉教授・名誉顧問

野々山 恵章
防衛医科大学校小児科学講座 / 教授

林 泰秀
上武大学 / 副学長

桃井 真里子
自治医科大学 / 名誉教授

山縣 然太朗
山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座 / 教授

● 山崎 章子
埼玉県立浦和高等学校 / 養護教諭
埼玉県養護教諭会 / 会長

山城 雄一郎
順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座 / 特任教授

※敬称略・五十音順

※●はドクターによる養護教諭のための出前セミナー事業の選考委員

2019 年 6 月 14 日現在

ご 寄 附 の お 願 い

「病で苦しむ子どもたちを少しでも減らしたい。」そんな想いにご賛同いただき、お力添えいただければ幸いです。
ご寄附いただける場合には以下のとおりお願いできればと存じます。

1	当財団ホームページより寄附金申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、 以下まで郵送またはFaxにてお送りください 郵送の方：〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-10-1 公益財団法人 川野小児医学奨学財団 事務局宛 Fax の方：049-246-7006
2	銀行等より、ご寄附をお振込みください
3	ご寄附の振込を当財団にて確認後、受領証明書・寄附控除のご案内を送付致します
4	税金の控除等を受けるためのお手続きをお願い致します 個人の場合：ご寄附をされた翌年の 2 月 16 日～3 月 15 日までに税務署宛てに確定申告手続きを行ってください 法人の場合：ご寄附をされた当該事業年度の税務申告の際に損金算入手続きを行ってください

医学書ご寄附について

当財団の奨学生のために医学書寄附をお願いしております。

ご寄附の流れ	ご寄附いただける医学書がありましたら以下までご連絡ください 公益財団法人 川野小児医学奨学財団 事務局宛 Tel：049-247-1717 Mail：info@kawanozaidan.or.jp
受付期間	2019 年 8 月 1 日～ 2020 年 1 月 31 日
注意事項	・医学書のみ可、コピー等は不可とさせていただきます ・ご寄附いただいた医学書は、返却できませんのでご了承ください





公益財団法人

川野小児医学奨学財団

〒350-1124

埼玉県川越市新宿町 1-10-1

Tel: 049-247-1717

Fax: 049-246-7006

Mail: info@kawanozaidan.or.jp

Url: www.kawanozaidan.or.jp

Facebook: <https://fb.com/KawanoZaidan>